

# 総合政策科学研究科新プログラム 「サステナビリティ共創プログラム—SDGs とジェンダー」 開設によせて

総合政策科学研究科教授 岡本 由美子

2023 年度、同志社大学大学院総合政策科学研究科において、新プログラムの 1 つとして「サステナビリティ共創プログラム—SDGs とジェンダー」が開設された。2015 年の国連総会において、2030 年までに世界が丸となって 17 の目標からなる SDGs を達成することを盛り込んだアジェンダが採択された。その SDGs の 5 番目の目標が「ジェンダー平等の実現」である。

世界経済フォーラムが毎年、ジェンダー・ギャップ指数を公表しているが、我が国は 2023 年で 146 カ国中 125 位と、先進国の中のみならず、全世界的に見てもジェンダー平等達成度が低い。とりわけ、政治・経済分野での女性の参画が遅れていることがその要因となっている。地球規模の課題だからというだけでなく、日本国内でも、「ジェンダー平等の実現」は喫緊の課題となっている。

しかし、我々がジェンダーやダイバーシティにとりわけ注目をするのは、他にも大きな理由がある。それは、他の 16 の SDGs の目標を達成するためにも、このジェンダーやダイバーシティの視点が重要だからである。今日、政策理念として「ジェンダー主流化」が謳われることが多くなっているのはそのためである。例えば、2023 年度、開発協力大綱が改訂されたが、ODA の実施原則の一つに「ジェンダー主流化」が選ばれ、開発協力のあらゆる段階においてジェンダー主流化を通じたジェンダー平等及び女性のエンパワーメントを推進することが盛り込まれたのである。

本プログラムは同研究科の 7 名の専任教員（足立光生教授、川口章教授、川井圭司教授、小谷真理准教授、新見陽子教授、岡本由美子教授、田中秀樹准教授）によって担われ、2 つの必須科目と 8 つの選択科目から構成されている。2 つの必須科目のうちの 1 つ「政策研究プロジェクト」では、それぞれの教員が持つ国内外のネットワークを駆使して、日本のみならず世界におけるジェンダー視点を取り入れた様々な取り組みについて多彩な講師陣とディスカッションを交えながら学ぶ、というユニークな授業となっている。同プロジェクトの最後には受講生各自がジェンダー平等に向けたプランを考え、発表するという、実践的な取り組みも盛り込まれている。2 つの必須科目と最低 3 つの選択科目を受講した院生には、履修証明プログラムが発行されることになっている。

10 名程度の院生が 2023 年度に開講された上記 2 つの必須科目をすでに受講しており、SDGs やジェンダーに対する興味関心の高さが窺える結果となっている。また、2023 年 7 月 9 日（日）には、同志社大学良心館 303 号室において、「SDGs とジェンダー平等化：フェアトレードの可能性と今後の課題」と題して新プログラム開設記念シンポジウムが開催された。本プログラム担当の教員を含め、200 名近い方々に御参加いただき、非常に活発な議論が展開された。

本プログラム開設に寄せて、4 名の専任教員（足立光生教授、新見陽子教授、岡本由美子教授、田中秀樹准教授）がそれぞれの専門分野の視点から SDGs とジェンダーに関連した論文を執筆・寄稿し、『同志社政策科学研究』第 25 巻第 2 号に、特集号として掲載していただけたことになった。政策学会編集委員会の方々には厚く御礼を申し上げる。これら寄稿論文によって、本プログラムが目指す方向性がより一層明らかとなり、1 人でも多く SDGs とジェンダーに関する研究に興味関心を抱く院生があらわれることを期待してやまない。